

東山会関西支部便り

平成26年（2014年）度

名古屋大学工学部機械系学科同窓会

東山会 関西支部



第 51 回名古屋大学東山会関西支部総会
H25 年 11 月 2 日

- | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------------|---|------------------|--|------------------|---|------------------|------------------|------------------|
| 和
田
滋
憲 | 白
井
良
明 | 為
広
隆
二 | 兼
松
昭 | 小
川
耕
司 | 荻
原
稔
蔵 | 平
野
昌
宏 | 黒
田
博 | 小
田
宗 | 市
川
徹 | 上
野
雅
啓 | 米
田
隆
一 | 所
邦
彦 | 欠
田
良
児 |
| 深
谷
修 | 山
田
晃 | 鷺
田
俊
司 | 青
山
信
英 | 杉
田
雄
二 | 東
山
会
会
長 | 名
古
屋
大
学
工
学
研
究
科
教
授
秦
誠
一 | 安
田
幸
伸 | 東
山
会
関
西
支
部
支
部
長 | 加
古
幸
博 | 東
山
会
関
東
支
部
副
支
部
長 | 松
宮
克
行 | 清
水
義
一 | |

目 次

	(頁)
1. (支部長寄稿)母校にエールを 支部長 安田 幸伸 (昭和39年卒)	1
2. 第51回東山会関西支部総会講演概要 (H25年11月2日) テーマ: 少子高齢化に対応する超効率的材料探査技術 名古屋大学大学院工学研究科教授 秦 誠一氏	2
3. 会員寄稿 テーマ: 私とグラウンドゴルフ 山田 晃 (昭和33年卒)	9
4. 平成25年度東山会関西支部総会報告 幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	11
5. 同好会報告 「囲碁の集い」報告 囲碁担当幹事 白井 良明 (昭和39年卒) ゴルフ同好会報告 ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和43年卒)	13
6. 平成25年度東山会関西支部会計並びに監査報告 会計幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒) 監査 山田 晃 (昭和33年卒)	15
7. 編集後記	16
8. 平成26年度 東山会関西支部役員名簿	17

1. (支部長寄稿) 母校にエールを



支部長 安田 幸伸 (昭和 39 年卒)

湿度が高く蒸し暑い日々が続いていますが東山会関西支部会員の皆様、お変わりなくお過ごしでございますか。日頃は支部活動に格別なご支援、ご協力を賜りましてありがとうございます。誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

そろそろ梅雨明けの時期になって来ましたが今年も地域によって降水量の差が大きく関西地区では統計史上“6月の平均値の40%弱”と報じられています。ここ数年同じような状況ですので、これが普通なのでしょうね？

イギリス教育専門誌が、中東を含めたアジア地域大学ランキング100を発表しました。日本は20校（前年比-2校）、中国18校（前年比+3校）韓国14校がランクインし日本は順位を下げる大学が目立ち、急速に追い上げられているのが顕著となっています。評価基準は研究論文の引用頻度や外国人留学生の割合など13の要素ということです。同誌は日本の伸び悩みの要因は高等教育への投資抑制や慢心、国際化の消極性などアジアトップの座を奪われるのも時間の問題だと厳しいコメントを示しています。参考までに名古屋大学は29位でした。

企業も色々と変動要因（たとえば地域紛争、為替等々）がある中で、世界で、アジアで、日本でランキングされています。大学も企業と同じように、公正で客観的な評価基準で比較し、新聞紙上にランキング（順位）まで掲載されます。はっきりしていて明快なのか、先入観を与えてしまっていて誤解を受け易いのか、何の意図があるのかよくわかりません。

私達OBにとって、大学のランキングは余り意味のあることではありませんが、大学にとっては将来の死活を決定する最重要な事項です。幸いなことに名古屋大学には法人化以来、勇気ある知識人の育成を学術憲章とし、グローバル化ではアジアのハブ大学を目指して、個々に課題をブレークダウンし地道に具体的に成果をあげつつ、評価されつつあります。東山会関西支部としても、興味をもって、エールをおくりましょう。

(H26年7月19日) 記

2. 第 51 回東山会関西支部総会講演概要（H25 年 11 月 2 日）

テーマ：少子高齢化に対応する超効率的材料探査技術



名古屋大学大学院工学研究科
教授 秦 誠一氏

経歴の紹介

秦でございます。「少子高齢化に対応する超効率的材料探索技術」というテーマでお話いたします。

始めに私自身の経歴につき簡単にご紹介いたします。私は 1994 年に東京工業大学修士課程を修了したあとオリンパス光学工業（現オリンパス）に就職しました。私は学生時代からマイクロマシーン、MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)と言われる小さな機械をやりたいと思っていましたがその志のまま当時、国プロのマイクロマシーンPJ に参画していたオリンパスに入社しました。オリンパスでは MEMS 関連の部署に配属され MEMS 用の微細金型の研磨装置や金属ガラスの超精密成形、またそれらの光学機器や医療機器への応用に関する研究開発に従事しました。その間、年 1 回くらい東工大恩師の下河辺 明先生(当時 精密工学研究所 教授)にご挨拶に行っていましたが、3 年目に助手のお誘いを受けて東工大に戻りました。その後、助手、助教、准教授を経て昨年、ご縁があつて名古屋大学に赴任した次第です。東工大ではまだ指導している学生がいますので今は東京と名古屋の二重生活です。来年度(H26)早々には実験装置全部を名古屋に移して二重生活は終る予定です。

最近はこれからお話するコンビナトリアル技術（説明は後記）とオリンパス時代からやってきた MEMS、マイクロマシーンと言われる微小な機械技術の融合分野とか、新しい助教（溝尻瑞枝氏）を迎え、最近話題の 3D プリンターの研究を一緒にやっている次第です。此のあたりは当研究室の HP をご参照頂ければと存じます。

深刻な日本の人口問題と対応策は

今日は、まず我国の少子高齢化に関し、わが国の人口の推移を振り返った後、今後について考えてみたいと思います。

終戦後の第1次ベビーブームピーク時の1949年には270万人もの新しい命が生まれました。その後、第2次ベビーブームが1973年来て209万人が生まれました。第2次ブームが来たのは非常に単純で、第1次で生まれた世代が20数年経って次のピークを作ったというだけのことです。そうしますとまた20数年後には第3次ベビーブームが来たはずですがそれはありません。実は晩婚化などが原因で合計特殊出生率（一人の女性が一生に生む子供の平均数）が低下する時代になってきました。そして丁度今年（H25）あたりから急激に少子化が始まります。これは第2次ベビーブームの世代も40歳を超えてきますので子供を作るのがもう限界になりつつあるということです。今年あたりから急激な出生数の減少が始まります。仮に今、ヨーイドンで一人が必ず2人子供を生みなさいと強制して2030年くらいまで続けたとしても、昨年で大体107万人くらいの出生数だったのが70万人へ、つまり30%以上子供が減るという“少子化の不都合な真実”が今後間違いなく続きます。若者の世代人口は1年代あたり80万人以下となり、労働人口も1年代あたり100万人程度になってしまいます。こうなると労働集約的産業の農業等のもとより、学生も減りますから教育産業も厳しくなると考えられます。世の中5年先、10年先のことは全く分からない世の中ですが、こと人口統計に関して言えば10年先、20年先までは見通すことができます。

人口減少の対策として“移民の受け入れ”がありますが、移民を受け入れたヨーロッパを見ると大体失敗して悲惨なことになりつつあり、お人よしである日本への移民受け入れは社会の崩壊の心配があります。移民の受け入れをしないとすれば知識集約化もしくは自動化、機械化を推進し、一人当たりの生産性を数倍高めないと世界で戦っていけないと考えます。

少し話が脇道にそれますが、歴史的に見て日本は明治維新から40年かけて近代国家を作りました。ロシアのバルチック艦隊への歴史上空前と言われた大勝利で日本は当時の列強の仲間入りをしました。しかしその後40年、先の大戦に敗北しまさに破滅に進みました。その焼け野原からまた40年かけて、国民の必死の努力で“ジャパン アズ ナンバーワン”と言われる経済大国の絶頂を築きました。そして現在は次の40年サイクルのどん底に向かう最中と私は認識しています。しかし、私は楽観的に考えています。2025年ごろからは、また次の黄金の40年が来ると信じています。ただ歴史上このまま沈んでいった国というのは枚挙に暇はありません。ですから今の若い世代を奮い

立たせ、頑張ってもらわないといけないと思っています。

人口減少に対応する研究開発分野での新たな技術

このように非常な速さで少子高齢化が進んでいます。今の学生は根性が足りない、内向きだ、ゆとりだとかいろいろ言われています。しかし、生まれながらに物質的に豊かな時代で育った彼らに、昔のように「頑張れ、根性だ」と言ってもなかなかその通りにならないことは、致し方ないことです。そもそも母数（人口）そのものが新興国に比べどうしようもなく少なくなりました。ではどうすればよいかと考えましたが、機械屋の私ができることは、やはり自動化まさに機械化するということであろうと考え、コンビナトリアル手法・技術というのを始めたわけです。

コンビナトリアル手法とはどういうことか、従来の材料探索手法は、サンプルを作るために組成比やマテリアルの加熱温度を変えたりなどして、多種のサンプルを製作、評価して、ダメなら作り直す。そういうやり方は膨大なコスト（＝時間＊人手）がかかります。日本ではこれからも続けて行くことは難しい時代になって来ました。コンビナトリアル手法は一個一個異なるサンプルを作らず、一度に集積して作ってしまいます。そしてそれを一度に調べる（評価する）ことで、従来に比べて探索時間やコストを大幅削減するというものです。もともと製薬の分野で発達した技術ですが、この方法論を考えた人はノーベル化学賞を受賞しています。そのあと材料屋さんが酸化物、例えば青色発光ダイオード、透明磁石、透明半導体など機能性材料の酸化物等に適用し東工大、東北大学などで大々的に実施しました。金属ではコンビナトリアル技術の黎明時期（1960年ごろ）の頃には研究されましたが評価技術が追い付かず下火となりました。特にアモルファス合金のコンビナトリアル探索は、私のオリンパス時代や東工大助手の頃には全く例がありませんでした。私は丁度よいと思い、新しいMEMS材料、特に薄膜金属ガラス等のアモルファス合金に適したコンビナトリアル成膜・探査技術の確立というのを目標に研究を始めた次第です。

コンビナトリアル手法の適用：アモルファス合金開発

アモルファス合金とは結晶を持たない非晶質の金属です。コンビナトリアル手法で組成の少しずつ違う材料を作る場合、普通、膜厚の違いを使って層状に元素を混ぜてアニールして膜厚方向に均一化し基板面内方向に元素の組成が少しずつ違うサンプルを作ります。しかし、アモルファス合金の場合、アニールの時に結晶化しアモルファスの特性が失われますので成膜の時に混ぜる必要があります、そこに新しい工夫の余地があります。

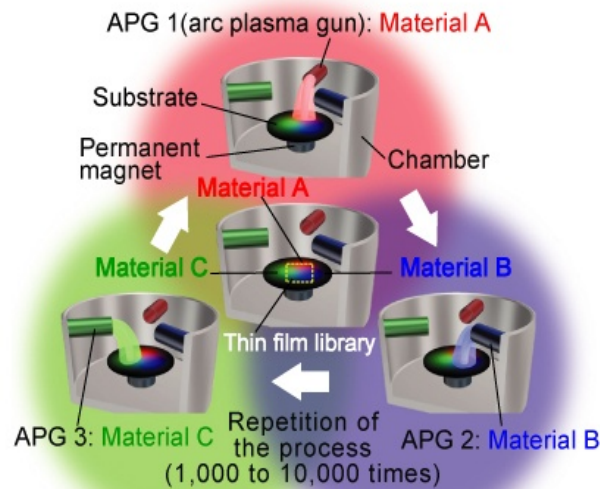
それができればアモルファス合金は、元素を混ぜるだけで物性が発現しますのでコンビにとってはやりやすい材料とも言えると考えました。

コンビナトリアル探索では組成の異なるサンプルを組成傾斜薄膜として一つの基板上に成膜します。そして、サンプル中に成功部分があるか、または全滅なのかを高速に調べます。従来の方法では軽く数年くらい時間がかかります。コンビの場合では例えば3元くらいの合金系で大体3ヶ月で調べることができます。3ヶ月程度であれば全部失敗であったとしても、一日二日酒飲めば何とか忘れられると思いますが、3年もかけて失敗してしまうと「お前首ね」と言われかねません。コンビナトリアル手法はこの探索効率の向上に大きく役に立つ技術です。

アークプラズマ蒸着法でのコンビ成膜技術開発

コンビナトリアル成膜とは要は組成が少しずつ違うサンプルを一つの基板上に集積して作る方法ですが、いろいろな成膜方法が使われています。私は金属、特にアモルファス合金に適したコンビナトリアル成膜に使える方法としてアークプラズマ蒸着法(CAPD)を開発しました。この蒸着法は昔からある成膜方法です。長所としては①磁場や電場により蒸着範囲を制御できる、②パルス状成膜のため膜厚制御が容易、③構造が単純で装置を小型化出来る。逆に短所として、絶縁体には適用できません。シリコンなど半導体や絶縁体材料を使いたい場合、何か金属を混ぜて導体にすれば可能です。

CAPDは薄膜を構成するマテリアルの数のアークプラズマガン(APG)をチャンバーにセットし、各マテリアルをそれぞれのガンの位置から1000回程度から最大20000回くらい打ち基板上に蒸着させます。各マテリアルはチャンバー内の各ガンに近い位置で濃く、周辺へは薄く基板上に分布させることができます。この場合、基板にはマテリアルの数の濃淡が連続的にできます。いわゆる組成傾斜膜が基板上に成膜出来ることとなります。私たちはこれを“薄膜ライブラリ”と呼んでいます。普通に成膜しますと組成の濃淡はできますがただ1枚の金属膜ができるだけで、全然目印が無いのでどの部分を測定しているかなど取り扱いに困ります。ここで、作った組成傾斜膜をMEMSの技術を使って各1mm角で33×33個、つまり1089個のサンプルに切り分けます。各サンプルには上と下に8ビットのマーカをインデックスとして付け、顕微鏡で何行、何列のサンプルか分かるように工夫しました。事前にAPGの1パルス(ショット)ごとの各マテリアルの原子数を算出しておきます。



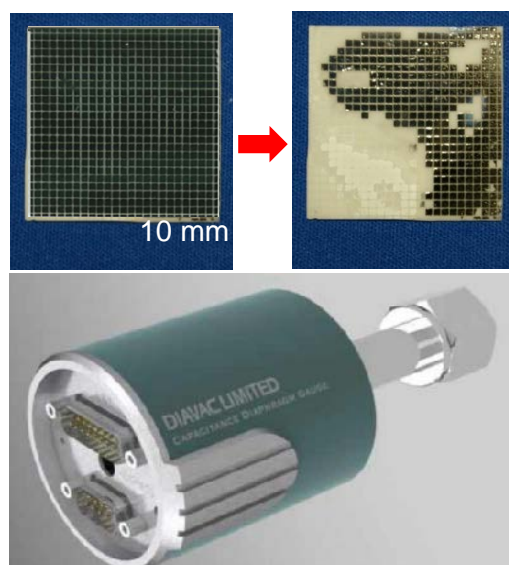
コンビナトリアルアークプラズマ蒸着法

Pd、Cu、Si の 3 元合金で成膜実施した例ですが、Pd を最初に 2 回打ち、次に Cu を 2 回打ち Si と Pd を混ぜた合金を 1 回打つという 1 サイクルを 5000 回繰り返して 1089 個の成膜サンプルを作ってアモルファスになったか、結晶化したかを調べました。APG の強度調整などによって 3 元合金濃度分布の調整は可能です。したがってショット条件を事前に計算し目的の成膜サンプルを得ることができます。そして少し特殊な市販の X 線回析装置を用いますと数百個のサンプルのどんな組成がどんなアモルファスを示すかを一度に調べることができます。

このような CAPD を用いた組成探索・最適化をここ数年やっております。具体的には○Ru (ルテニウム) 基の薄膜金属ガラスの創製、○Pd 基の金属ガラスの低抵抗組成の最適化、○高耐食性 Ru 基, Ni 基薄膜アモルファス合金の創製、○超精密切削加工可能なガラス成形金型用 Pt 基アモルファス合金の探索、○超精密切削加工可能なガラス成形金型用 Ni 基 (Pt フリー) アモルファス合金の探索 などです。

[CAPD を用いた探索技術の実用化適用例]

- ① メンブレン(薄膜)形真空計の高耐食性薄膜の開発：半導体製造装置は中を非常にクリーンにする目的で強い腐食性ガスを使います。このため真空計のメンブレンの腐りが速く、耐食性と弾性に富んだ薄膜材料の開発を要請されました。コンビナトリアル探索を用いた共同研究を開始し、半年くらいでサンプル出荷いたしました。この場合、CAPD で薄膜ライブラリを作り、腐食ガスにある期間暴露して腐らない材料の組成を見出し、この中の優等生を真空計に適用したということです。



薄膜ライブラリを用いた高耐食性材料のハイスループット評価とその応用例（隔膜式真空センサー）

- ② Ni 基アモルファス合金のガラス成形金型材料への適用：アモルファス合金は耐熱性が小さいが結晶構造がないのでダイヤモンドバイトで精密に加工できます。熱のかかるところに適用できる Ni 基アモルファス合金の探索に文科省予算をいただき実施し、超精密切削加工が可能なガラス成形金型材料を探索し硝子材との低融着性を証明しました。

ここでアモルファス合金の探索の場合、一つ大きな問題があります。基板を 1 mm 角のサンプルにすると一度に 1000 個くらいできますが、その評価がとても大変なことです。一日一個調べても 3 年は必要です。例えば線膨張率や熱的な特性、特に変態温度や機械的特性などはわずか 1 mm 角で数 μ m 厚のサンプルでは評価自体が難しいのです。アモルファス合金をターゲットにした場合、結晶の開始温度がとても重要です。私はサーモグラフィーを使って赤外線温度で基板上の結晶化開始温度(変態温度)の(非接触)測定法を開発しました。結晶化とは状態の変化ですから放射率も変化します。薄膜ライブラリを上から放射率の変化の計測だけで結晶化温度を測定できます。従来のアモルファス合金の結晶化開始温度の計測法と比較して 10 倍から 100 倍近く時間を短縮できます。また、この方法は従来手法では大変な時間と労力が必要だったアモルファス合金の熱的安定性を示す時間温度変態特性 (TTT 特性) を、基板に温度傾斜をつけた状態で保持することで簡単、短時間で測定可能としました。また、アモルファス合金の結晶化だけでなく、例えば非常に計測が難しいとされる形状記憶合金のマルテンサイト変態温度の把握にも適用可能です。

これからの展開について

私はマイクロマシーン、MEMS と言われる小さな機械をやりたくてこの世界に入りましたが、これらとコンビナトリアル技術を融合して、“もっと強い材料”、“もっと耐熱性の高い材料”の研究もこれから10年の仕事として開始しております。

薄膜材料の従来の疲労試験の周波数は良くて1 kHz、1度に1つの試験片でしか試験できません。10の8乗の試験で1日、9乗だと10日もかかります。アクチュエータをマイクロ化しますと共振周波数が数十倍上がります。そしてマイクロの場合、集積化が可能で多数のサンプルの同時計測が可能です。疲労試験用マイクロアクチュエータは圧電フィルムに薄膜の試験片を接着して電圧をかけると圧電フィルムがペコペコと面内方向に振動し試験片の曲げ耐久試験が高速でできます。試験片は5 mm 長、幅 0.4mm、厚さ 50 μ m くらいのもので、かける応力は圧電フィルムにかかる電圧で加減します。応力は直接測れませんので試験片の振動状態をモニターして有限要素法で解析して計算で求めています。Ti 薄膜の疲労特性を見ますと従来は10の5乗サイクルくらいまでしかデータはありませんが、この方法ですと10の8乗サイクルくらいまでのデータを非常に高速に採ることができます。

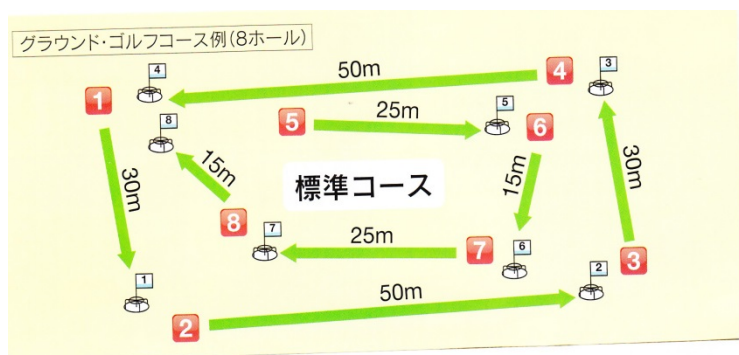
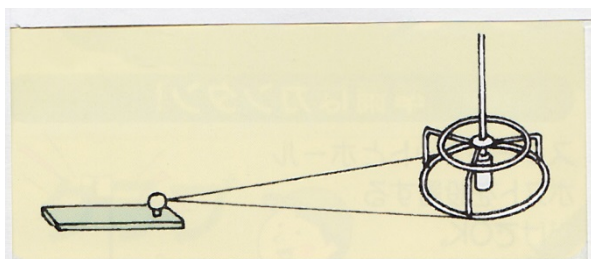
今後の展開ですが、新しい薄膜金属系の MEMS マイクロマシーンを研究し、次にコンビナトリアル技術、つまり薄膜ライブラリの実現とそれらのハイスループット（高処理量）評価法の研究を進めてきたので、次の十年ではこの二つの技術（MEMS 技術とコンビナトリアル技術）の融合を進めていこうと思っています。

私とグラウンドゴルフ

33年卒 山田 晃

私がグラウンドゴルフと出会ったのは平成10年に県の高齢者大学でシニア向け軽スポーツの体験紹介でした。その時は格別興味も持たなかったのですが平成14年に団地内で自治会を立ち上げた時同年代の方々との親睦を深めるにはと思い紹介したところ、皆さんが興味を示されたので早速用具を揃え近くの公園でゲームを始めましたが2か月後には25名ほどになり馬見北7丁目グラウンドゴルフ同好会を結成して現在にいたっています。慣れてくると8ホールを20分位で廻れますので、現在は家内も一緒に毎週火・木・金の3回朝9時から10時半位まで4ゲームを楽しんでおり日常の生活のリズムになっています。そのうちに町の老人会でもグラウンドゴルフ部を作ることになり幹事に選ばれましたが、ゲームの進め方やルールに疎い村の方が多いので小生が指導員的な立場になり月2回の練習会・春と秋のコンペなどを取り仕切ることになってしまいました現在に至っています。

ここでグラウンドゴルフの内容について簡単にご紹介します。ゲームは10cmほどのプラスチックのボールを1本のクラブで打って



図のような金属製のポストに入れる打数を競うもので、各ホールは右図のように15mから50mの8ホールで構成されています。各ホールのパーは全て3なのでトータルは24ですが、ホールインワンをするとトータル打数から-3出来る特典があるのでとにかくホールインワンを狙いがちになりますが、あまり狙うとコースや距離が外れて3打で入らず4~5打になってしまうことも多々ありこの辺をどう考えて打つのが面白い所です。妙なものでホールインワンは入る時は何事もないように入りますが、入らない時はいくら狙っても入らず苛立ちます。私はこれまでの経験からグラウンドゴルフは技術は2割・運が8割のゲームだと思っています。このようなゲームなので女性や高齢者の方々に人気があるのではないのでしょうか。

組織としては日本グラウンドゴルフ協会が元締めで各県・市町村に支部があり、会員数は全国で19万人・奈良県は1万8千人ですが協会に未加入のまま活動しておられる方も多く全体では4~5倍は居られると思います。大会は市町村・県では春・秋の2回

あり、全国大会としては日本協会の大会のほかに厚労省主管のネンリンピック（国体の高齢者版）があります。私は昨年の県大会で上位に入り高知県四万十市で行われたネンリンピック大会に奈良県代表として参加し、幸運にも6位に入賞することが出来ました。一昨年食道がんの手術をしたのですが幸いに健康を回復出来た上でのことで本当にうれしく一生の思い出になりました。大会では成績に関係なく最高齢の方が寿賞として表彰されますが、四万十市の大会では最高齢は94才・90歳以上の方が4名でした。私は8月で79才になりますがせめて米寿まではグラウンドゴルフを楽しめたら良いなと家内共々話し合っている昨今です。

4. 平成25年度（第51回）東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲（昭和43年卒）

1. 開催日時 平成25年11月 2日（土） 15時～19時

2. 場所 大阪弥生会館

3-1. 総会概要

(1) 出席者（24名）

ご来賓 杉田雄二氏（東山会会長）

秦 誠一氏（名古屋大学大学院工学研究科教授）

加古幸博氏（東山会関東支部副支部長）

東山会関西支部会員 21名

(2) 構成

① 講演会 15.00～16.30 (司会：荻原稔蔵 幹事 S43 卒)

② 支部総会 16.35～17.00 (司会：白井良明 副支部長 S39 卒)

③ 懇親会 17.10～19.00 (司会：荻原稔蔵 幹事)

3-2. 講演会

テーマ「少子高齢化に対応する超効率的材料探索技術」

講師 秦 誠一氏（名古屋大学大学院工学研究科教授

マイクロナノシステム専攻）

〈講演の概要は当支部便り2. に掲載〉

3-3. 支部総会

(1) 支部長挨拶 安田幸伸 支部長(S39 卒)

○ご来賓、参加会員各位のご参加への謝辞、秦教授ご講演への謝辞

○秦教授のご講演を聞き、

・(物作り現場にいたが) 担当業務改善につき今頃悟った部分があった

・技術は1位で走らないと世界で立っていけないことを痛切に感じる

・40年周期での興亡のお話もあったが厳しい競合下にある企業に頑張ってもらいたい

○支部庶務幹事を深谷幹事から小川幹事に交代する

・・・深谷氏の長期間の庶務幹事役に対し心からの謝辞があった

(2) 東山会本部代表のご挨拶 杉田雄二東山会会長(S46 卒)

○関西支部の招待に対し謝辞

○関西支部総会の参加メンバー、庶務幹事の若返りを喜ぶ

○本部の動き

・3月に約100名の新会員の歓迎会：7割以上が大学院へ進学

- 困ったときの先輩の力：同窓会は大切・・・と教授から PR があった
- ・6月に「東山へ帰る日」：S37年、38年卒対象で実施 約30名参加
次回は2年先（H27）になる、S39年、40年卒の方は是非ご参加を
- ・H26年1月東山会同窓会：丹羽宇一郎氏の中国関連講演を予定
大学院1年生にも参加呼びかけ
- ・名簿の管理：理事会で議論中

○関西支部活動の若返りと総会の継続を願っている

(3) 関東支部副支部長のご挨拶 加古幸博氏（S48卒）

- 総会招待に対し謝辞と51回総会開催への祝辞
- 秦教授のご講演は楽しく聞いた・・・関東支部での講演機会もあればと思う
- 関東支部活動について
 - ・(H25)5月に第6回総会を開催：60名弱の参加
商船三井の武藤社長が講演
藤田支部長がこの総会で退任、山本支部長・加古副支部長体制へ
 - ・フォーラムを年1回開催：11月に電気自動車の勉強会
 - ・企業の見学会も実施
 - ・囲碁、ゴルフコンペ、寮歌の会などもやっている
- 支部としてS50年代後半以降の世話人候補が少ない・・・仕組みづくりが必要
- （関西支部会員へのお願い）関東支部の「総会」につき関西支部会員の方は
年賀状等の添え書きで紹介して欲しい
〔総会等への参加は異分野の交流などがあって勉強になる〕

(4) 会計報告 和田滋憲 会計幹事（S43卒）

○別紙に基づく会計報告があった

(5) 会計監査報告 山田晃 会計監査幹事（S33卒）

- 伝票等精査した結果、会計報告書どおりと認めた
- *会計報告及び監査報告は総会参加者総意にて承認された

(6) 一般報告 深谷幹事（S34卒）、小川新幹事（S49卒）

- 庶務幹事は次回から小川幹事へ引き継ぐ
- 支部役員会の開催（2回）とその議事等
- 会員の総会参加への働きかけや開催上の問題点について
- “支部便り”の発行・・・印刷物は希望者に送付
（“支部便り”は過去も含め）インターネットの東山会HPに掲載している
- 訃報：2名
- 小川新庶務幹事の着任の挨拶があった

以上

5. 同好会報告

(1)「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 白井 良明(昭和 39 年卒)

○ 囲碁の集いは偶数月に行っています。開催日は会員の都合のよい日を調査して設定しています。場所は、岩田氏の計らいにより、交通の便のよい中央電気倶楽部で開催しています。中央電気倶楽部は、大正初期に設立され、現在の建物は3代目ですが、昭和初期に建てられ、歴史を感じさせられます。

○ 現在の会員は、松田保、岩田恒雄、清水義一、青山信英、古澤裕、鷺田俊司、大野玲、深谷修、兼松昭、白井良明、浅井毅、荻原稔蔵(卒業年次順)です。しかし、何人かは休会していることと、全員の都合が一致しないことからやや少人数の会になっています。

○ 新人の入会を歓迎します。参加をご検討される人は囲碁担当幹事の白井までご連絡ください。

連絡先 e メール ykshirai@gmail.com, tel: 06-6932-2203



中央電気倶楽部外観 (朝 10 時)



対局風景

○ 今年度も平成 25 年 8 月から平成 26 年 6 月まで 6 回開催しました。結果は次のとおりです。

開催日	参加人数	優勝者	成績	備考
25 年 8 月 29 日(木)	7	白井 4 段	4 勝 0 敗	
25 年 10 月 22 日(火)	7	白井 4 段、浅井 3 段	3 勝 1 敗	
25 年 12 月 18 日(水)	4	なし		参加者少数
26 年 2 月 20 日(木)	6	白井 4 段	3 勝 1 敗	
26 年 4 月 24 日(木)	5	兼松 3 段	3 勝 1 敗	
26 年 6 月 19 日(火)	8	大野 3 段	3 勝 0 敗	

5. 同好会報告

(2) ゴルフ同好会報告

ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和43年卒)

今年 春季東山会ゴルフ同好会は 6月23日(月) ディアパークゴルフクラブで実施しました。梅雨真っ只中の時期でしたが、好天に恵まれ 楽しくプレーができました。小田さんが初参加の予定でしたが、急遽ご都合が悪くなり、昨年と同メンバー、2組6名の参加となりました。

新ペリア方式で優勝は市川(グロス41、46、ネット72.6)、NP賞は山田さん、太田さん、市川×2となりました。

秋季ゴルフ同好会は11月～12月上旬の割引日(月曜)を予定していますので、よろしくお願いたします。兼松さんが復帰、小田さんも加え、2組、8名以上の参加となる予定です。



6. 平成25年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)
 会計監査 山田 晃 (昭和33年卒)

下記内容の平成25年度東山会関西支部会計及び会計監査報告は、平成25年11月2日開催の東山会関西支部総会にて承認されました。(当支部報では 会計及び 会計監査幹事の朱印は省略しています。)

平成25年度東山会関西支部会計報告

平成25年10月31日

期間：平成24年11月1日より平成25年10月31日

収入及び前年度からの繰越金	金額 (円)	支出及び次年度への繰越金	金額 (円)
収入		支出	
1. 年会費 (54人分、振込み手数料引き)	104,160	1. 総会関係費用	138,280
2. 平成24年度総会会費	157,000	2. 支部報、総会案内制作費	43,180
3. 東山会本部援助金	30,000	3. 通信費	37,365
4. 関東支部藤田支部長ご祝儀	10,000	4. 会議費	10,640
5. 預金利息	192	5. 事務用品費、コピー費	11,739
		6. 旅費、交通費	20,390
(当年度収入計)	(301,352)	(当年度支出計)	(209,812)
前年度からの繰越金	722,554	次年度への繰越金	762,312
合計	1,023,906	合計	1,023,906

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 和田 滋憲

以上の報告は適正なものと認めます。

会計監査 山田 晃

7. 編集後記

- この稿は毎年 8 月上旬に書いています。昨年の「支部便り」の編集後記を見ますと、全国で頻発する豪雨による水害の記載から始まっていました。今年も九州、四国、東北など観測史上に残る豪雨が報じられています。地球の気象は大きく変化していると言わざるを得ません。それにも関わらず私たちの関西は運よく（と思えますが）現時点では大きな水害は免れています。1. の安田支部長の寄稿文にありますように関西ではこの時期の“少雨”状態が“普通”と錯覚する状況です。しかし、油断は禁物、災害は忘れた頃にやってきます。
- 安田支部長の〔1. 母校にエールを〕を読んで感じるのですが、新聞等で何かとランキングが報道されますと、それが大学関係評価なら私は“名大”についての評価を第一義的に注目します。やはり“母校だから”ということなのでしょう。毎年、名大全学同窓会関西支部総会が大阪市内で開催されます。名大濱口総長は必ず講演されて名大の現状を説明されます。母校のレベルアップはOBとして嬉しいものです。
- 名大 秦教授には、少子高齢化が必然となる日本の将来を見据え、電子機器等に使用される微小部品材料等の耐環境性等に優れた材料開発や評価につき、人手と時間をかけない方法の技術開発につきご講演いただきました。興味をもってお読みください。先生の明るい、ウイットに富んだお話が記憶によみがえります。今後のご発展を祈念しております。
- S33 年卒山田晃さんは一昨年、食道がんを大手術で克服され、現在でも当支部のゴルフ同好会にお元気で参加されています（P13 写真の右から二人目）。グラウンドゴルフでは町内会のリーダとして普及に努めておられるようです。お歳ではさらに大先輩が多く居られるようですが、日本一を目指し永くご活躍ください。

(W 記)